

.....学校教育目標.....

自分のよさを磨き、一人一人が光り輝く子どもの育成
～自己を見つめ、なりたい自分の実現をめざして～

平成29年10月20日

京都市立朱雀第七小学校
校長 鶴飼 洋子

朱七だより

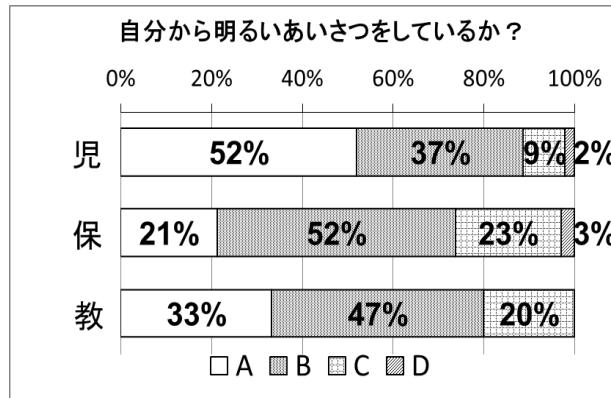
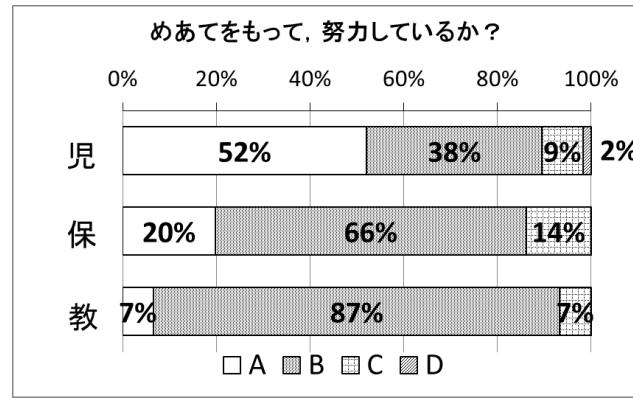
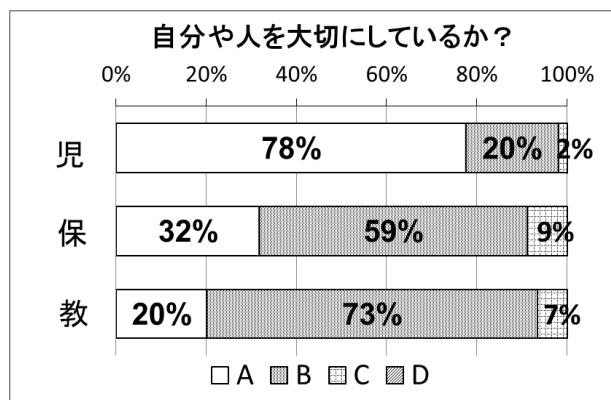
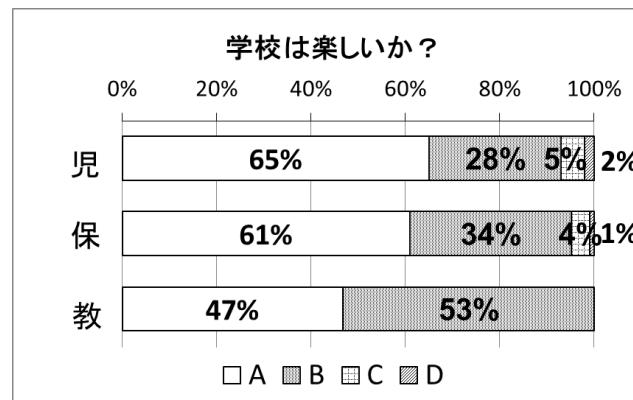
<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/suzakudai7-s/>

児童・保護者・教職員アンケートの結果

9月に行いました学校評価アンケートに、多数ご協力をいただき、本当にありがとうございました。202件の回答をいただきました。学校運営協議会理事の皆様と一緒に考察いたしました結果をお知らせいたしますとともに、この結果をもとに、学校・家庭・地域が今まで以上に連携しながら、さらに子どもたちを育む今後の学校づくりに生かしていくたいと思っております。

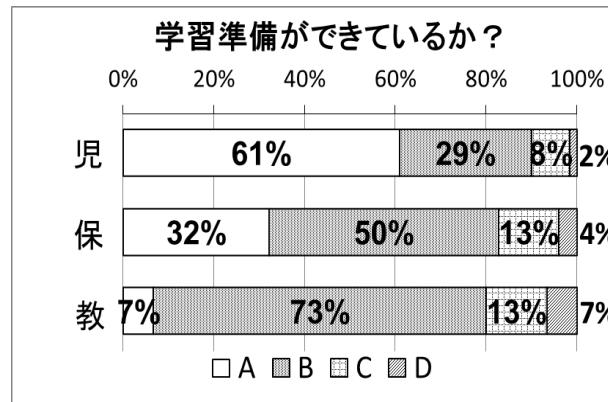
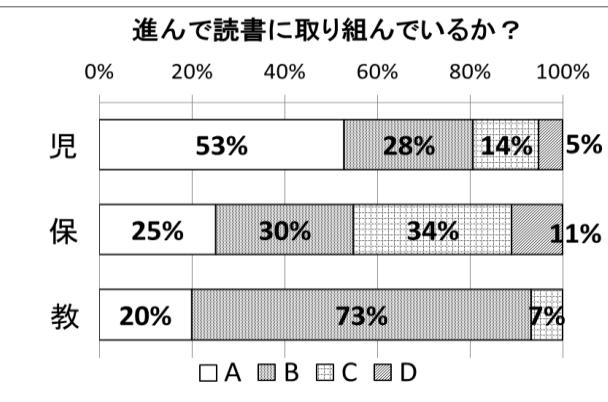
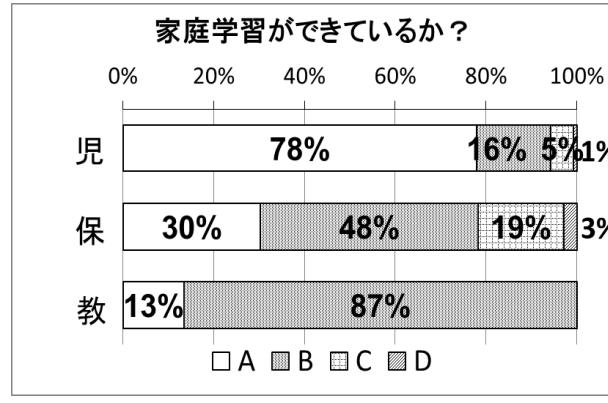
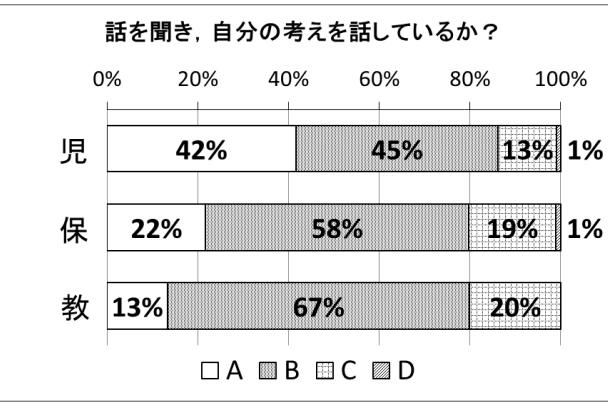
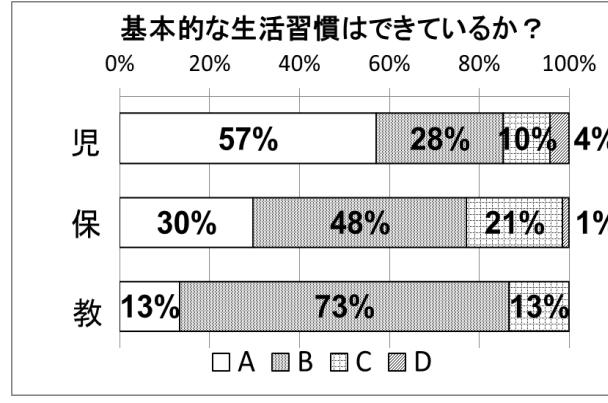
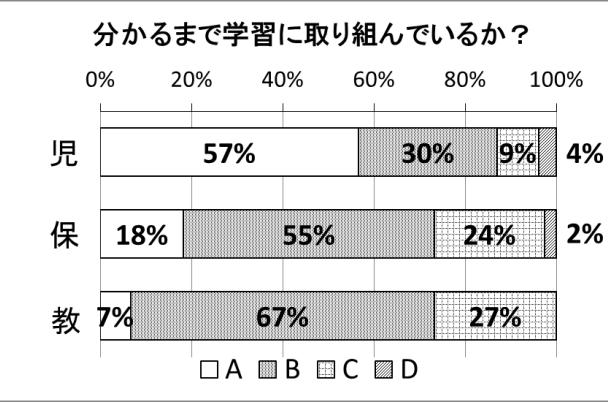
【グラフの表示について】A…よくあてはまる、B…あてはまる、C…あまりあてはまらない、D…全くあてはまらない

児…児童 保…保護者 教…教職員



上記の2項目については、概ね良好な状態と言えます。学校が楽しいかの項目については否定的な回答が若干みられることから、その要因を探る必要があります。また、めあてについては、より主体的なめあての設定とめあて達成に向けての取組を推進していく必要があります。

挨拶を含めた人権についての意識は、児童の「できている」と思っている意識と、保護者・教職員の「まだまだできない」と思っている意識の差が大きいです。大人の望む“人を思いやる姿”を子ども達に具体的に示し、よりよい姿の実現につなげていきます。



上記3項目については、いずれも子どもの主体的な学びを支えていく上で必要なものです。「分かるまで学習に取り組む」「話を聞き、自分の考えを話す」については、概ね良好な状態だと言えます。ただし、否定的な回答をする児童も見られ、教職員も否定的な回答をする割合が高いので、指導方法の改善、最後までやりきらせる指導を推進していきたいと思います。

「進んで読書に取り組む」については、教職員と保護者の回答傾向にはっきりと違いが見られました。学校では、読書の時間を設け、本を読む取組を行っています。子ども達に付けたい読書の習慣が、今後、家庭でもつけていただけるように、具体的な方策を考えていきたいと思います。家庭でも、読書時間の設定や環境整備などでご協力をお願いいたします。

上記3項目は、学校生活を支えるために、家庭で大切にしていただきたいものです。

基本的な生活習慣については、児童と保護者の認識の差があるので、保健だより「ほっこり」や日常の保健指導などを通じて、具体的に指導することが必要だと思います。

家庭学習については、保護者の評価が厳しいことが特徴的です。その分、厳しく家庭で見ていただいている表れかと思います。学校での声掛け、支援を引き続き行っています。

学習準備については、保護者・教職員の否定的回答が多く見られます。学校では、学習予定表の活用、持ち物や宿題の提示方法などを検討しています。家庭では、お便りを活用していただきながら、子ども達への持ち物の準備への声掛け・支援をお願いいたします。

家庭で大切にしていること

今年度の学校評価アンケートでは、各設問項目に合わせて、「家庭で大切にしていること」をお聞きしました。A（よくあてはまる）、B（あてはまる）と肯定的に回答していただいた方の割合は以下の通りでした。（昨年度の割合は、あてはまる項目に○をしていただいた方の割合です。）

回答項目	今回	昨年度
学校での出来事について、子どもと一緒に話をしている。	91%	76%
子どもの話をしっかりと聞いている。	82%	63%
子どもががんばっている姿をほめている。	86%	70%
子どもが物事に最後まで取り組めるように励ましの声かけをしている。	90%	59%
家庭で読書の時間を設けている。	24%	21%
子どもにも家族の役割分担をさせている。	95%	41%
家族は、自分から気持ちのよいあいさつをするようにしている。	90%	67%
忘れ物がないように、子ども自身が点検する習慣を付けている。	74%	57%
基本的な生活リズムが身に付くように条件を整え、家族で取り組んでいる。	87%	61%
家庭学習ができるように働きかけ、環境を整えている。	76%	46%
日頃のクラスでの学習や生活の様子について聞いている。	91%	66%
学校から配られるプリント（学校だより、学年・学級だより等）は必ず見ている。	96%	77%
家庭では、子どものよさを認めて、励ましている。	92%	62%
参観・懇談など、学校によく足を運んでいる。	79%	61%
学校や地域の取組に進んで参加している。	50%	27%

昨年度と今回のアンケートの回答方法が違うので、そのままを比較することはできませんが、多くの項目で8割以上の肯定的な回答をしていただきました。各内容について、ご家庭でお子達の様子を見守り、話を聞き、励ましていただいていることが、子ども達に安心感を与え、自信をもって学校生活を送ることにつながっています。ありがとうございます。

ただし、いくつかの項目では、否定的な回答の割合が高くなっています。「家庭での読書の時間の確保」については、前述の通り、学校での読書や国語科の学習などで取り組んだ本を使った学びなどを、家庭での読書につなげるようにしていきます。「家庭学習の環境づくり」「子ども自身が忘れ物を点検する習慣」については、家庭での学習時間の設定、家庭学習後の持ち物準備の習慣化など、各家庭の実態に合わせて、取り組んでいただきたいと思います。

また、学校や地域の取組への参加についても肯定的な回答の割合が少し低いです。学校からのお知らせ、学級便り、学年便り、学校便り、学校のホームページで可能な限り早い時期に、内容を分かりやすくお伝えすることを心がけて、保護者の方々がさらに学校、地域に関わっていただけるよう工夫していきたいと思います。

学校運営協議会の皆様からのご意見

10月10日（火）に学校運営協議会を開き、前期の取組や学校評価アンケートの結果から、様々なご意見をいただきました。主なご意見は、以下の通りです。

- あいさつについては、あいさつする子どもとしない子どもに分かれる。明るく大きな声であいさつできる、自分から進んであいさつできる子どもが、登校時は少ない。それでも、以前に比べると、全体としては少しずつ前向きにあいさつできるようになっている。下校時は、元気よくあいさつできる子どもが多く、うれしく感じている。心で思うだけ、頭を下げるだけではなく、声に出してこそあいさつである。
- 家庭学習については、教師が100%肯定的なのに対して、保護者が20%近く否定的であることが気になる。保護者はもっと高いレベルの家庭学習を思い描いているのかもしれません、子どもの興味のあることを深められるような自主学習を工夫する必要があるのではないかだろうか。
- 学校評価の結果について、公表するだけでは学校からの一方通行の感じがするので、保護者と対話できる場が設定できればよいのではないか。この結果について、学校と保護者がコミュニケーションを図ることが大切である。

今後の取組に向けて

以上のような学校評価をいただき、ありがとうございました。皆様からいただいたご意見を、今後の本校の取組に活かしてまいりたいと思います。特に、今後の取組として、以下の内容について積極的に取り組んでいきたいと考えています。各ご家庭で、地域で、今まで以上にご協力ををお願いいたします。

- 学校生活の様々な活動において「めあてをもとう」と呼びかけていますが、さらに主体的にめあてを設定して取り組めるように、子ども自身が自分の姿を真摯に見つめ、どういう姿をめざせばよいのか具体的に考えられるように、一人一人を支えていきます。
- あいさつについては、「あかるく、いつも、さきに、つたえる」が合言葉として子どもに定着しつつありますが、全員が気持ちのよいあいさつができるようになるまで、教師が手本となり、保護者や地域の方々にも手本を示していただけるようご協力いただきながら、根気よく取り組んでいきます。
- 読書については、毎朝の帯時間「おはよう読書」や、読み聞かせサークル「ぶんぶん」の皆さんによる「読み聞かせ」、国語科の学習に関連する読書などで子どもは読書に親しんでいるところです。今後、学校司書と連携を図り、「子どもにとってより魅力ある図書室」を運営していきます。そして、本校が継続して取り組んできている長期休業中の「親子読書」も含めて、家庭で子どもが読書に親しめる具体的な取組を工夫します。
- 生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）をしっかり確立させることが、登校時の気持ちのよいあいさつにもつながると考え、日常の保健指導や栄養教諭による食の指導（栄養指導）、生活点検週間におけるきめ細やかな指導を大切にします。